

(寄稿)

医師・研修医・地域から支持を受ける病院

～雪ノ聖母会聖マリア病院に於ける取り組みについて～

最近、自治体病院の民営化の議論が活発になっています。これらの機運を背景に、このヘルスケアノートとは別にパブリックノートとして、「自治体病院の現状と今後の課題」というテーマのレポートを、シリーズで執筆しております。パブリックノートでは、主に病院経営を、地方行政上の課題把握を目的として民間病院(主に医療法人)と対比しつつ、基本的な問題点を出来るだけ簡潔に可視化する試みを行っております。

パブリックノートの執筆にあたり、多くの医療法人の管理本部の方や自治体の話をおうかがいする中で、民間病院と自治体病院の間でのガバナンスの違いが、病院経営に大きく影響していることを改めて痛感しました。

今回は、医師・研修医・地域から支持を受けている雪ノ聖母会聖マリア病院の院長藤堂景茂氏に寄稿いただきました。本稿は、経営理念及び経営指標の分析に基づく現状把握と経営戦略、更に人材教育まで、示唆に富んだ内容となっております。そして、何よりも院長自ら執筆いただいたことから、聖マリア病院におけるガバナンスでは、院長がその中核となっている様子をうかがい知ることができます。

本レポートと寄稿の骨子

1. はじめに

～自治体病院におけるガバナンスの問題と経営改善の限界～

2. (寄稿) 医師・研修医・地域から支持を受ける病院

～雪ノ聖母会聖マリア病院に於ける取り組みについて～

(1) はじめに

(2) 聖マリア病院の運営方針

(3) おわりに

2007年10月3日

Healthcare note
(No.07-27)野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザリー市川 剛志
(編集主幹)

寄稿者名:

雪ノ聖母会聖マリア病院
院長 藤堂 景茂